

SHIBUKAWA ART RELA 2023 in IKAHO

アート作品募集企画書

渋川伊香保を訪れる度に、 魅力を再発見するアートイベントの開催

伊香保が作り上げてきた魅力（歴史、温泉、旅館、商店など）を活かしながら、**伊香保を新たなきっかけで知ってもらうアートイベント**を開催します。今回で3回目を迎えますが、今年度以降も継続的に実施することで再び伊香保に来てもらうきっかけとします。

アートは、場所や表現の可能性が幅広い媒体であり、見る人それぞれの感じ方・とらえ方が認められ、誰でも表現し、見て感じるすることができます。

アートによって表現された伊香保を見た人に、「伊香保にこんな場所があったんだ」「そんな思いがあったんだ」「こんな風になるんだ」と**知ってもらう、再発見してもらう、そして次も表現される伊香保をまた見に来てもらう。**

さらに、誰でも参加できるアートイベントだからこそ、準備や当日は地元の大人から子供までが一緒になって参加し、伊香保のコミュニティも盛り上げていきます。

イベント全体概要

- タイトル : SHIBUKAWA ART RELA 2023 IN IKAHO 渋川アートリラ2023 in 伊香保
- 目的 : アートイベントを通して、イベントを作り上げる人たちが関わり合い、作り上げる過程を経て、より強いつながりを作っていく、そのパワーにより盛り上がっている伊香保を外に向けてアピールする。来街者も楽しく、その輪に入っていくようなイベントを生み出すことで、伊香保のファンを増やす。
- 開催期間 : 2023年2月27日(月)～3月5日(日) (予定)
- 内容 : (1) イベント開催期間の展示内容
・アーティストレジデンス作品展示
・過去作品のアーカイブ展示
・市民アーティストによる企画展示
・参加者と共に作り上げる企画展示
・参加型アート体験コンテンツ
(2) 展示以外のプロジェクト
・リラていぶ(市民ボランティア)
・地元商店とのコラボ企画
・コンセプトを体現する仕掛けづくり
・展示作品のアーカイブ化
- 主催 : 渋川伊香保温泉観光協会

SHIBUKAWA ART RELAとは？

伊香保はかつて文人たちが愛した温泉地であり、渋川市内には日本シャンソン館が存在し、赤城には国指定重要有形民俗文化財である上三原田の歌舞伎舞台が上演されるなど、渋川地域は今もなお文化芸術が盛んな地域です。数多くの芸術が育まれた渋川で、アートを通じて関係者のみならず参加者の皆様ともつながることで、多世代が関わり、人と人のつながりが生まれ、地域活性化の一助となればと考え、本アートイベントを企画・実施しております。21年3月に開催された第1回目のイベント「SHIBUKAWA ART RELA 2020 IN IKAHO」では、“渋川地域の伝承・言い伝え”をテーマに、旅館を中心とした5か所の展示会場にて、11個のアートにまつわるコンテンツを行い、公募で集まった市民の作品や体験ワークショップで製作した作品、アーティストによる作品の展示と合わせて計57名による展示を実施しました。22年1月に開催された第2回の「SHIBUKAWA ART RELA 2022 IN IKAHO」では、“伊香保をunsort”をテーマに全国から公募した7名のプロアーティストによるアーティストインレジデンス企画のほか、市民アート、体験アートなど28の作品展示を行いました。

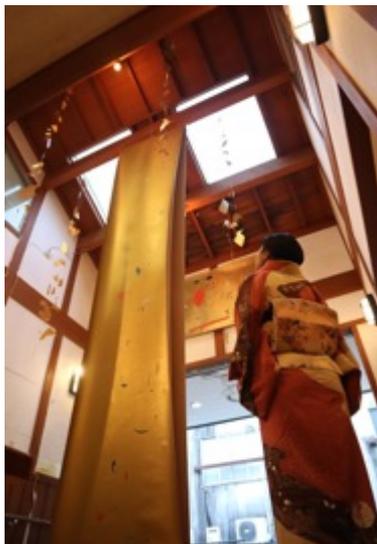
“RELA”に込める想い

SHIBUKAWA ART RELAのRELAはRELATION(関係性)やRELAY(つなげる)といった単語の頭文字を取った造語です。後ろに続く文字によって多様な変化を受け入れるという想いを込めて、「アートで人と人がつながり、多様な価値観を認め合っていく」ことができれば、と考えています。



イベント内容

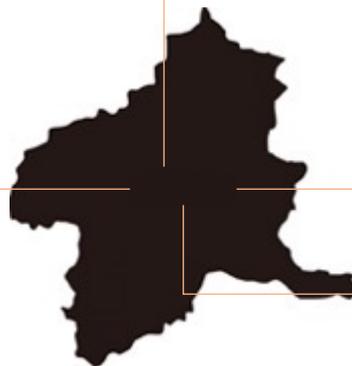
渋川伊香保地域の各所にアートを通じた観賞や体験イベントを点在させ、街の回遊を促します



アーティストレジデンス作品展示
：コンセプトを体現した伊香保のアート展示



アート体験：参加者が気軽にできる体験型のワークショップ



市民アート展示：市民から公募した渋川の風景作品の展示等を行う



その他の企画プロジェクト：商店とのコラボ企画、参加者と共に作り上げる企画プロジェクト

伊香保のre-consolidation

～イベントを通じたより強い人と人との結びつき～

伊香保のre-consolidation

～イベントを通じたより強い人と人との結びつき～

consolidationは

強化、結束という意味で、強い圧力で固めていくイメージです。

また、心理学用語としても記憶の定着という意味があります。

伊香保の連帯・結束・強化、そしてそこからの、記憶の定着として、新しい伊香保を定着させていきたいという願いです。

reconsolidationは

これも心理学用語で、一度は長期記憶として安定化した記憶が、想起されることにより不安定な状態になり、そして再び安定な状態に戻る神経システムを意味します。

伊香保という、長い歴史の間に定着化されたイメージを、いったんunsortしたのが前回。それが一時的な不安定化を起こすけれど、そこから改めて人々の間に定着するように、伊香保の中の人々もre-consolidation（再結束）し、それが外の人の記憶にもre-consolidationするように、という思いを込めたコンセプトです。

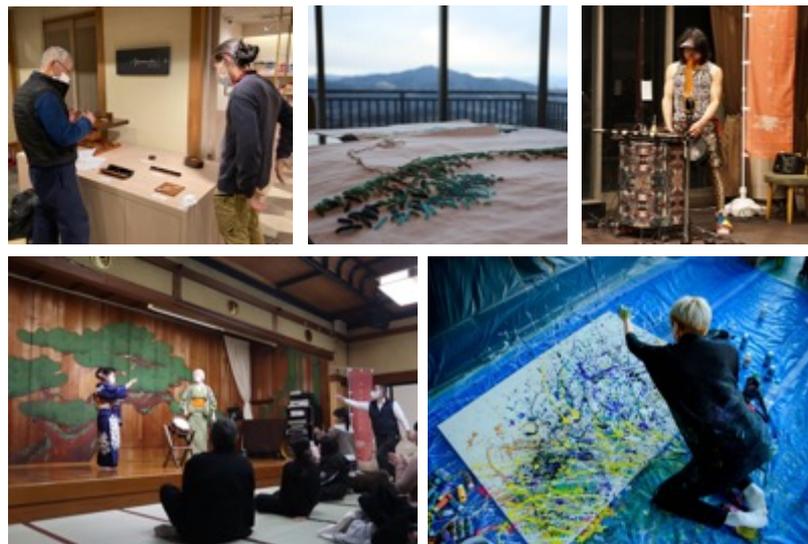
伊香保各地の施設でのアーティストイン・レジデンスにて、 メインアートを製作・展示していただける作家を公募します。

- 事業名 : 渋川アートリラ2023 in 伊香保 アーティスト・イン・レジデンス事業
- 内容 : 「渋川アートリラ2023 in 伊香保」内で展示するアート作品を制作していただくアーティストを募集いたします。アーティストには伊香保の地に滞在しながら、コンセプトである「伊香保のre-consolidation」をテーマに、平面作品・立体作品・インスタレーションなど、伊香保の街並みや社会的・歴史的背景を反映し、伊香保の将来に寄与する作品を自由に製作していただきます。
また滞在期間中は伊香保の観光地や地元市民と積極的に交流を図り、地域の文化芸術を通しコミュニティの発展に貢献していただきます。
- 応募内容 : 募集人数 5名程度を想定
募集締切 2022年12月31日17時必着 ※審査は応募受付順に実施。募集人数に到達次第、募集は締切
- スケジュール : 募集開始 2022年11月1日
下見ツアー 2022年11月24日（木）11時～13時を予定 ※詳細確定後ご連絡
参加者決定 2023年1月下旬
滞在 2023年2月1日～2023年3月5日
準備日程 2023年2月23日～2022年2月26日
会期日程 2023年2月27日～2023年3月5日
- 応募方法 : 応募方法等の詳細は「アーティスト・イン・レジデンス応募概要」を参照

アート作品を巡って伊香保を散策

伊香保をunsortをテーマに全国から公募したプロのアーティストが旅館に滞在して制作活動を行うアーティストインレジデンス事業による作品展示や市民の皆さんから自由公募した作品、当日の体験コンテンツを実施することで、参加者はアートを作品を巡りながら、伊香保の街を散策した。

▶前回イベント「渋川アートルラ2022 in 伊香保」展示や制作の様子。ホテルロビースペースや宴会場などの場所をお貸しいただき、訪問者は回遊をきっかけに普段宿泊以外では入ることのない施設を訪れることになった。また、市民アーティストとプロアーティストが作品を通じて対談する場面も見受けられた



- 実施期間 : 2022年1月24日～30日
- 展示場所 : お宿 玉樹、いかほ秀水園、和心の宿大森、温泉宿塚越屋七兵衛・別館香雲館、ホテル松本楼、ホテル木暮、千明仁泉亭、お宿かつほ、他
- 主催 : 一般社団法人渋川伊香保温泉観光協会
- 協力 : 渋川子ども若者未来創造プロジェクト、群馬県立女子大学文学部美学美術史学科実技ゼミ
- 運営 : 渋川アートルラ運営事務局



展示候補場所（例）

前回イベント「渋川アートリラ2022 in 伊香保」と同様、渋川伊香保地域の旅館や商店内のスペースでの展示に加え、伊香保の裏路地や使われなくなった空き家などを展示場所とする予定です。

展示場所の詳細は追って決定いたします。



▲商店内スペース・旅館での展示例



▲路地裏や空き家 ※写真は候補場所の一例です

リサーチ時の情報提供（例）

<伊香保の大家制度と十二支の歴史>

江戸時代の伊香保には石段街の左右に「大屋」と呼ばれる12軒の温泉宿がありました。1764年（享保3年）徳川九代家重の時代に12軒の大屋に十二支を名付け、1871年（明治4年）まで「子」の年には子の大屋が正名主、対極の午の大屋が副名主となって年番制で名主を務め、口留番所（伊香保関所）に役人として勤務もしていました。（十二支年番名主制度）現在の石段街には、その大屋の屋敷跡にそれぞれの十二支プレートが埋め込まれています。



アーティストが住まう街 伊香保 アートによりさらなる彩りを

かつての竹久夢二のように、伊香保は文人に愛され、文化を育んできた街。

アーティストが旅館に住まい、製作活動を通して、地元の方々と交流することで、新たな文化を創造し、そのアートが伊香保にさらなる彩りを与えてくれる。

アートはどんなしがらみもなく、自由に表現されます。その自由な表現から与えられるインスピレーションは人それぞれ。その作品の解釈に正解はなく、個々人が感じたままそれを受け入れることができます。

アート表現を受け入れることは、多種多様な考え方を認め合うことにも繋がります。そうした繋がりがアーティストと交流することで、街全体に広がり、そこに新たなコミュニティが生まれることを願います。